

# Chapter 3 - 3.5

## Flexibility in a branching approach

国際日本専攻M2

5319027・王君洋

## Below A1

A1レベルに達するまでには、学習者は非常に限られた言語を使って、学習者のニーズに関連する特定のタスクを効果的に実行できるかもしれない。

- can make simple purchases where pointing or other gesture can support the verbal reference;
- can ask and tell day, time of day and date;
- can use some basic greetings;
- can say yes, no, excuse me, please, thank you, sorry;
- can fill in uncomplicated forms with personal details, name, address, nationality, marital status;
- can write a short, simple postcard.

スイスの経験的結果を基にして、以下の図2で示されたように、等間隔の一貫した九つのレベルを示唆している。

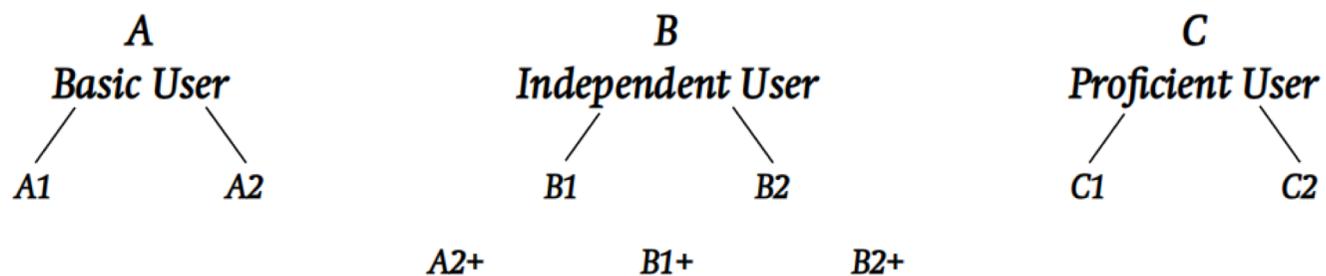


Figure 2

the ‘*criteria levels*’ (e.g. A2 or A2.1) and the ‘*plus levels*’ (e.g. A2+ or A2.2)

基準レベル

プラスレベル

Table 4. *Levels A2.1 and A2.2 (A2+): listening comprehension*

	Can understand enough to be able to meet needs of a concrete type provided speech is clearly and slowly articulated.
A2	Can understand phrases and expressions related to areas of most immediate priority (e.g. very basic personal and family information, shopping, local geography, employment) provided speech is clearly and slowly articulated.

レベルの間に分割点を決めることは主観的であり、幅の広いレベルを好む人もいるし、細かく分けるのを好む人もいる。枝分かれの利点は、共通枠組みと関連付けながら、異なる利用者がニーズに合わせるために、それぞれの観点に基づいて、共通のレベルや能力記述文を実際にレベル分けすることができる。

このような柔軟性のある枝分かれ方を使うと、組織は場合によって適切な細かさのある枝分かれができ、共通枠組みを基に彼らのシステムで使われるレベルを位置づけることもできる。

## 例1

小学校や中等教育の低学年、成人の夜間クラスみたいに、低いレベル段階での進歩を目に見える形で与えておく必要が感じられる場面を想定する場合。

多数な学習者があると想定される A2 (Waystage) をさらに細かく分け、Basic Userをおよそ六つのレベルにする。

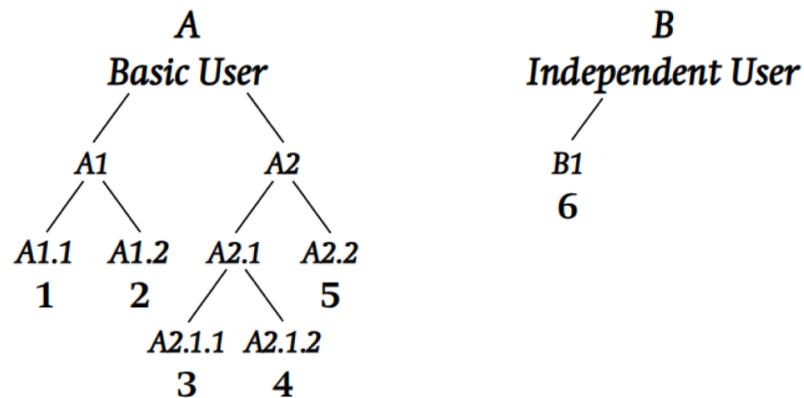


Figure 3

## 例2

当該言語が話されている地域で言語を学ぶ環境を想定する場合。  
Independence Branchを開発する傾向があり、中央のレベルを細分化することによって、より細かい分枝を発展していく。

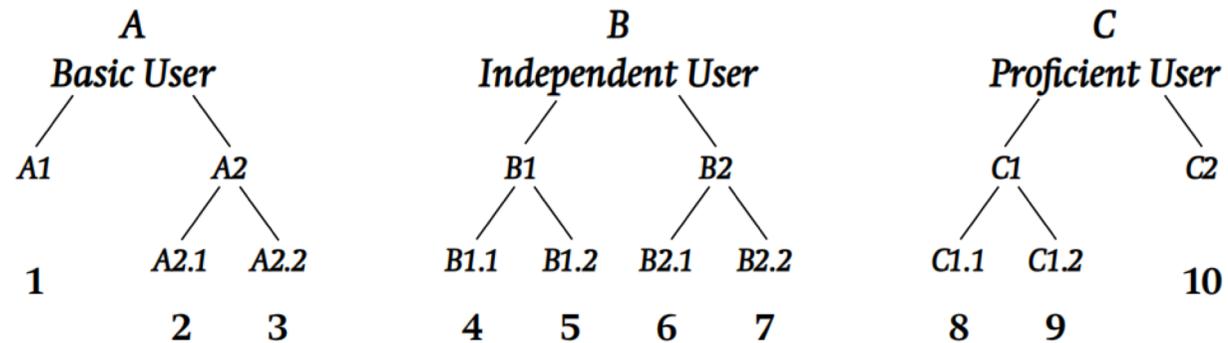


Figure 4

### 例3

職業的なニーズのために高度の言語スキルが要求される場合。  
Proficient Userを細かく分けるだろう。

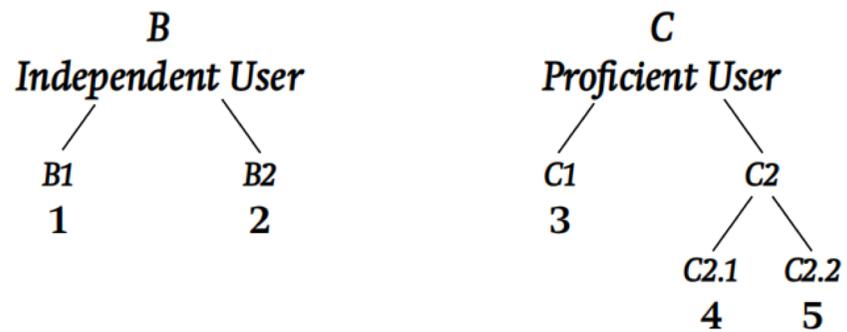


Figure 5